

国労闘争団が、「協同」の思想を我がものとして地域と結びついたとき、国鉄闘争はその質において勝利への大きな一步を獲得したと言えるでしょう。またそのことは、バブル経済崩壊のもとで、直接的な解雇や肩たたき、出向や強制配転などの犠牲を強要されている労働者に、企業すがりではない「もう一つの働き方」を示すことであり、限

りない勇気を与えることになると確信するので

す。  
私たち函館闘争団は、「勝つまで、そして豊かにたたかいつづける」体制の確立めざし、働く者のチエと楽天性をしっかりと発揮しあいながら闘いつづけます。

## <特集・'93年度協同総研の活動に向けて>

### 協同総研に期待するもの

森

私の現在やっていること、又やりたいことのその一つは、我々の日常の食生活から排出される廃棄物のうち、生ゴミや食品工場からの廃棄物（おから・ジュースかす・魚のアラ・コーヒーかす・排水汚泥・e t c）畜産業から出る畜糞尿、人糞尿などを、良質の有機肥料にして土に還して、土を健康にし、安全・安心でおいしい農産物を供給する日本農業再生と、環境を守る運動を進めることである。一方、社会の現状は、生活者といわれる動脈産業、静脈産業、土作りが、有機的につながっていない。

そこでやりたい事の二つ目は、これらを何とか有機的に結びつける事である。今、日本で、食の安全と環境問題に最も深くかかわっているグループの一つは、消費者生活協同組合とその生産者グループであろう。このグループの中でさえも、消費者と動脈/静脈産業と土作りが、有機的な結びつきを、やっとしはじめたところである。

私は、消費者生協とプラントメーカー/小型機器メーカーに身を置いて、以上の二つの事をやろうと、日々努力をしているが、その中で、種々な問題がうかんできている。これらは、相当な部分が協同総研と、全国労働者協同組合連合会のメンバーならば解決できるものと、共通の課題として残るものがあるのではないかと考えているので、あえて厚かましく以下に述べるので、ご協力と、ご教示・ご批判を頂ければ幸いです。

成 蹊（大阪よどがわ市民生協理事会室）

#### 1. 需要の発掘

- (1) 一般家庭の生ごみ
- (2) 学校給食の加工残渣と食べ残し
- (3) 給食会社/結婚式場/パーティ仕出し会社/レストランの加工残渣と食べ残し
- (4) 食品加工会社の廃棄物  
イ. 豆腐のおからと汚泥  
ロ. ジュースの絞りカス  
ハ. コーヒーの絞りカス  
ニ. 魚加工会社のアラ・内臓  
ホ. ダシメーカーのだしがら(魚鶏豚牛……)
- (5) 鶏・豚・牛・馬の糞尿
- (6) 人糞尿。等がある。

以上の需要先は、全国では無数にある。これらから、具体的に需要を事業化するかが第一課題といえよう。

#### 2. 現状の把握

- (1) 誰が、何を（非常に具体的に、例えばオカラの場合、水分の何%の）、どれだけ(日量・月量・年量・最大最小日量)、どこでゴミを出しているか(重さと容積の両方で)
- (2) 今、どのように処理しているか(プラント名・機械名・薬品名・e t c)
- (3) その処理費(重さ/容積の単位当たり)……(人件費・設備費・償却費・e t c)
- (4) 誰が処理しているか
- (5) 処理物がどのように流通しているか



(6) 今、何が問題か

(7) 処理に補助金を活用しているか、その補助事業名は何か

以上の現状に関する情報を集めるのが最も難しい。この点地域に密着した各自治体や、企業の労働組合の内部情報は貴重であり、期待されるポイントである。

### 3. 情報の加工と提案

上記2.-(6)の「今、何が問題か」を検討し、玉村事業団のメンバーの成功例など参考にしながら、算出提案する。これら設備や、運営ノウハウについては、協同総研とメンバーグループのもつものを、集め整理し、ハードとソフト（人材も含めて）の両面で、いつでも活用できるよう、整備を更に進められることを期待する。但し、設備や運営は、日進月歩故、常に要所要所のハード面、ソフト面に秀れた人達と連絡をとり、遅れをとらぬようにすることが大切であるが、大変なタイム&マネーを要する事でもある。このシステム化が、今後の課題として残るのではなかろうか。

### 4. 事業の運営と人

経営の基盤となる条件は、ケース毎に千差万別で、他の協同組合のノウハウを創造的に、条件に合わせて改善していく必要が出てくる。例えば、

- (1) 立地の違い
- (2) 燃えるゴミの処理能力
- (3) ゴミ処理コスト
- (4) 自治体のゴミ処理に対する姿勢／考え方の違い

等、全て土地、設備の提供や委託料等、経営の収支面で直接影響があるものである。このために、協同組合のリーダーに、いかに優秀な人材を得られるか、が事業運営の成否のポイントになる。ここに、労働組合を基盤に持ち、豊富な人材、OB網を持つ協同総研に期待がかかる。

### 5. 事業運営／経営コンサルティング

日々種々な問題がおきてくる中で、民主的討議を通して解決して行くのだが、既述の他協組の経験や知恵に照らせば、良い解決策が出るだろうし、先達の失敗の軌跡をたどることも防げよう。ここ

で、3.項の「情報の加工と提案」で述べた情報の蒐収／加工による最新のハードとソフト両面の情報を、いつでも引き出せるシステムと、生きた経営の最高の情報源でもある人材ネットワークは、コンサルティング時に大きくモノを言うだろう。

### 6. 人材教育

事業運営／経営は、責任者／リーダーに大きく左右される。しかし、現実には仲々優秀な人材を揃えることは難しいだろう。協組のメンバーは、各々の仕事分担に応じた適応・学習・創造をやらねばならないが、この場合、先達の苦労や失敗の軌跡を辿ることが多くみられる。この点で学習と教育が大変重要になる。小さな成功体験でも、積み重なれば、やる気やチームの結集力が遙かに大きくなり、更なる飛躍へつながるバネになることは間違いない。私は、学習と教育は全人的なものが最高だと思う。仕事に貴賤はないというが、一般に、ゴミのリサイクル事業は、肉体的にも、精神的にも、生やさしいものではない。だから、仕事そのものと、その仕事の持つ社会への貢献度やそれに伴う誇りといったものは、全人的な秀れた人と作業を共にし乍ら、語りあい、肉体と精神の両方で納得し、心の底からやる気を持つ事から養われると考える。このような全人的な教育／学習と技術面での学習がなされれば、事業は、不要な失敗なしにできよう。

そこで、教育と学習の場であるが、玉村町の事業団や光の事業団のように、大変な苦労と体験を通して成功されている所が、最高の場だと思う。両事業団の方々に、京都で一度お会いし、話を伺う機会があった。この時の感想は、彼等が実作業を通して、諸々の難問題を創業者として初体験で苦労しながら解決し、成功してきた強烈な自信と、その事業／仕事への誇りと情熱を持っている・・・という事だった。リーダーがこの様ならば、その組織風土、チームワークの雰囲気がおのずとわかる。それはリーダー同様、前向きで創造的で皆ベストをつくして、日々励んでいる姿である。ここでは、各自が仕事を通して、資質や能力を高める機会がある。このような場こそ、トレーニングが



学習／教育の中で最も大切な「心の底からやる気をもつ」ようになる所だろう。この様な場の提供とそのフォロー体制作りが、今後の事業成功拡大へのキーではないか。

#### 7. 国と地方自治体の補助金制度の活用

私のやりたい事に関りのある国と地方自治体の行政制度が、全て縦割りで、農水省・通産省・環境庁・厚生省等々と、個別の補助金制度になっている。このため、地方自治体の各窓口は、自分の所管分野の補助金だけに詳しいケースが多く、各省庁横断的な補助金制度に詳しい人は少ない。そこで官庁のどの窓口を通せば最も有利に補助金を獲得できるかに大きな差がでてくる。例えば、高知県の清流四万十川中流の西土佐村の、し尿の有機肥料化事業の場合は「有機栽培野菜安定供給対策事業」という農水省の補助金制度を活用した。この補助金の対象は、有機肥料製造プラントと建物、し尿の運搬車、肥料配送用トラック、農耕用トラクターなど農機具一式（有機肥料散布機も含む）、農機具格納庫、等々し尿処理に関する厚生省／環境庁のそれと比して遙かに広く地域おこし

に関わる補助金を得られたことがわかる。これは、国50%、県1/3以内、村残額という負担であった。他に主だったものは「畜産環境整備総合対策事業」（国50%）や「山村振興特別対策事業」等、種々あるが、総合的、横断的な視点から検討し選択できる事が誠に重要である。

今後、この面での情報蒐集と加工できる人材を確保する事が望まれる。

#### 8. 有機的結びつき／協同体制の確立

私がやりたい事のその2に挙げたテーマであるが、これは思ったより遙かに大きな課題で、なかなか難しい。例えば、農業と畜産、食品加工業と農業、都市生活者と農業の結びつけなど、まだまだ未解決の課題が山積しているが、生産者と消費者を結ぶ要に位置する生協が、オーガナイザー機能を一部では発揮したので、更に前進する目途がたちつつある。この課題は、生協グループ内部のみでなく、PL法法制化運動を含め、行政と労組や協同組合やマスコミを巻きこんだトータルな運動／交流が進めば、一挙にテンポが早まるのではないかと期待している。

---

## 研究所事務局よりのお願い

---

7月8日付けの通信にてお知らせいたしましたように、第3回総会の決定と議決を経て会員の皆様にいくつかのお願いとお知らせをいたします。

#### ＝93年度会費納入のお願い＝

「仕事の発見」誌の会費よりのきりはなしを総会での議決事項とする関係上、今年度の会費の請求がおくれていました。研究所機関誌発行方針と財政基盤確立という点を確認していただき、継続会費のご送金をお願いいたします。

#### ＝93年度会員名簿の作成にご協力を＝

先の通信にてお願いしましたように、会員名簿作成のための原簿になる返信葉書を回収しています。会員相互の交流を一層はかるためにも名簿発行はかせません。7月24日（土）着でご投函を。

#### ＝協同総研資料集No2 発刊

「共同保育所運動から子育てコープへ」＝昨秋開催した「あいち子育てコープ研究集会」の記録として総会時に発行しました。地域の子育てコープをめざし、新しい協同組合づくりとしても注目されます。池上惇会員の講演、後房雄会員の基調報告、愛知の黒島みつよさんを始めとする保母さんたちの実践報告、各地の取り組みもあわせて掲載しました。

発行の財政上、定価で会員の皆様にご購入していただくことになりました。注文をお寄せください。（定価1200円、送料1冊240円）

＝「ベンポスタ・子どもサーカス」の公演＝本誌16頁の森田彦一氏の寄稿のようにサーカス団が来日。詳細は同封チラシを参照ください。